

社会福祉法人睦月会 地域連携推進会議 公表用

施設名	わかばの家
種別	障害者支援施設(施設入所支援・生活介護)
事業所番号	131300029
開催日時	2026年2月15日(日) 10:40~12:45
開催場所	わかばの家 地域交流室
参加者	利用者代表 T様 利用者代表 I様 利用者家族代表 S様 地域代表 K様(南区自治会 会長) 福祉に知見のある方 H様 (社会福祉法人 国立市社会福祉協議会国立市障害者センター 所長) 事業所 佐藤 クリストファー田人(わかばの家 施設長) 事業所 中嶋 宏美(わかばの家 課長)
内容	<p>当日のスケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会のあいさつ ・出席者の紹介 ・地域連携推進会議の趣旨の説明(資料配布) ・事業所の設立の経緯・概要説明・課題 ・上記までの質疑応答 ・見学(わかばの家・てくてく/資料配布) ・意見交換・質疑応答 ・閉会のあいさつ <p>・開会のあいさつ(佐藤施設長)</p> <p>この会議は地域の中で障害福祉施設が共に歩いていくため、相互理解を深めることを目的として開催させていただきます。わかばの家の取り組みを知っていただき、もしかしたらあるかもしれない地域との壁を少しでも低くしていきたいと考えています。今日のこの機会を十分に活かして、意見交換させていただければと思っています。是非、よろしく願いいたします。</p> <p>・出席者の紹介</p> <p>それぞれに自己紹介をしていただく。</p>

・地域連携推進会議の趣旨の説明：資料配布（中嶋）

現在、国の方針として「地域移行」が進められています。入所施設もより地域とのつながりを強めることを求められています。しかし、現実には親亡き後の不安やグループホームだけでは足りないという課題もあります。

・事業所の設立の経緯・概要説明・課題

【設立の経緯】（佐藤施設長）

2000年11月、西東京市の親の会を中心に社会福祉法人睦月会が設立されました。当時は、都内での入所施設が少なく、遠方に入所せざるを得ない状況が多くありましたが「住み慣れた地域で暮らし続けられる場所を」という思いから2001年12月にわかばの家が開設されました。

施設内の作業棟に加え、歩いて15分の所に作業棟（賑笑工房てくてく/2013年10月開設）があります。賑笑工房てくてくは「住む場所」と「日中活動の場所」を分けたいというご家族の思いから設立されました。

【概要説明】（中嶋）

提供しているサービス（施設入所支援・生活介護・短期入所）について説明する。

○施設入所（定員：45名）

4つのユニット（利用者11名～13名）でケアを行っています。

年齢層は35歳～78歳。平均年齢は50歳です。現在は高齢化も進んで、身体介護の必要性も増しています。

○生活介護（定員：57名）

わかばの家で生活されている利用者も賑笑工房てくてくへ通所しています。

生活介護の活動内容は、コーヒー豆の選別作業・販売・道路清掃（市からの委託）・リサイクル活動（地域の高齢者施設や工場前に設置してある自動販売機から回収）・散歩・クラブ活動（絵画・スポーツレクリエーション）・自立課題（パズル・クリップの色分けなど）

○短期入所（5名利用/目黒枠1名含む）

・利用期間は1泊2日～1週間程度の利用が中心。

過去には、行政からの依頼で1年以上利用された方もいました。

利用される方は基本的にはリピーター。法人内の事業所をご利用されている方や賑笑工房てくてくをご利用されている方・近隣市町村にお住まいの方。

・利用目的はレスパイト（ご家族の休息・息抜き）や親亡き後のことを考え経験を積む為の方がほとんどです。

- ・利用者の1日の生活の流れを説明。
- ・宿泊旅行やお楽しみ外出など年中行事について説明。

【課題】（佐藤施設長）

元々は知的障害者のある方々の為の施設（家）として建てた経緯がありますので、身体面に関しては問題がないことを前提で建物が建てられました。その為、介護スペースが十分でない・エレベーターが狭く車椅子が入る想定でない・高齢化に伴ってリフトを設置したいと考えたがリフトが入らないなど、ハード面の課題が多く取り組んでいかなければならない。

◆意見交換・質疑応答

➡地域代表の方より

- ・平均年齢が50歳とのことだが、若い人が入所しないのは理由があるのか？

➡佐藤施設長・中嶋より

通所事業所から、短期入所を経て入所される方が多くなっている。その方々は通所事業所を何年も利用されてきた方で年齢も重ねていて、そのような方の親御さんも高齢化に伴って介護が難しく、生活の場を外に求める方が多くなっている。通所の事業所だと特別支援学校（高校）を卒業してすぐに入所される方が多いが、逆に言うと通所の所がある程度の年齢になると退所し、入所施設やグループホームに入るのが流れとしてはこれまでは多かったのですが、どうしても入り口の年齢層が高くなっている。

・見学

西2棟➡東2棟➡東1棟➡西1棟➡てくてく

賑笑工房てくてくについては、資料を配布している。実際に利用者にコーヒー豆の選別をしてもらい作業の工程などを説明した。

➡地域代表の方より

- ・わかばの家の浴室を見られ、浴槽に段差があり深いことを懸念するお言葉があった。でも、利用者も若かったし20年以上前に造られた建物なので仕方ないですね。

◆意見交換・質疑応答

➡地域代表の方より

- ・てくてくでのコーヒー豆の選別作業は、とても良い取組だと感じました。あのような選

別をすることで、品質が上がると思う。あとは、空き缶・ペットボトルも洗浄し貰う場所も決まっていて、それを歩いて運び良い日課だと思いました。

➡福祉に知見のある方より

・ゆっくり、じっくり見させていただきました。わかばの家の日頃の取り組みが想像できて、とても良い時間でした。気になった所は、ボランティアさんとはどのように関わっていらっしゃるのかとか。うちも生活介護をやっていますが、コロナの影響でボランティアさんも来にくくなり、我々も受け入れにくくなり、収束しても、以前のようなボランティアさんの受け入れ方が出来ないという悩みを抱えているのですが、その辺はどうかと思ったのが1点。

それと、利用者さんが30代から70代後半までいらっしゃるというその幅広さ。うちも20代から50代と30年代くらいあるのですが、こちらは40年代ほどの幅がある中で、活動のプログラムとかはどうされているのか。30代の方が地域と関わる視点と70代の方が地域と関わる視点はすごく違うのではないかという気がしました。

70代の利用者がいらっしゃるとなると、地元の老人クラブさんとか、そういう所との繋がりも可能性があるのかと感じながら見させていただきました。

➡利用者家族代表より

障害をお持ちの方に合わせた仕事をしてもらうのは色々難しいと思いますが、有難く思っています。

➡中嶋より

Hさん（福祉に知見のある方）からありました作業についてですが、70代の方であるT氏（会議に参加されている方）は最高齢で、てくてくへ行っています。とても意欲的で、必ず起床すると「今日はてくてくへ行くの?」と確認してきます。また、紐結びも行って手先を使うことで認知機能の低下を防ぐことが出来ていると思います。しかし、全体的に運動機能の低下は見られます。PTにより運動やレクリエーションを取り入れています。今後さらに工夫が必要と感じています。

自治会さんの老人クラブさんの活動はどんなことをされているのですか?

➡地域代表の方より

老人クラブというよりも、シルバー人材センターとかに派遣で入っている方達が一緒に何かをしています。あとは、自治会のお年寄り集まって会議室とかでカラオケをやったりみそ汁を作ったりは月に何回か行っています。

➡佐藤施設長より

地域の行事など参加をさせていただいていますが、やはりコロナ以前から比べると参加が難しくなっているのは間違いないです。ノウハウも1回切れてしまうと難しい所があ

り、ボランティアも地域の活動もそうなので今後は更に積極的にこちらからもアプローチして参加させていただきたいと思います。あと、先程ありましたがPTも入っていますので、自治会さんと協力をしながらPTの力を得て自治会さんの高齢の方々と一緒に協力しながら何らかの活動が出来れば良いと考えていますので、相談させてください。また、年齢差におけるプログラムには体力の差があり、そういった所も難しさの課題として残っています。今後は、活動の分け方や環境調整が課題と感じています。

→佐藤施設長より

Tさん（利用者代表）から何かお話がありますか？

→Tさん（利用者代表）より

今日はありがとうございました。

→利用者家族代表より

貴重な時間を頂戴し有難うございました。勉強になりました。

・開会のあいさつ（佐藤施設長）

本日はお忙しい中ありがとうございました。何かご意見がありましたらいつでも仰っていただけると有難いです。よろしく願いいたします。